



枕崎市では学校応援団などのボランティアの方々が、寒さに負けずに子供たちと様々な地域学校協働活動を行っています。今月も市内で行われた活動を紹介します。

～「そまんずし作り」で子供たちと交流～ 別府校区 年末の恒例行事

別府校区の年末の恒例行事となっている「そまんずし作り」が、12月18日に別府地区公民館で開催され、小学生、中学生、育成会、高齢者など、世代を超えて約170人の参加がありました。



「そまんずし」とは、そば（そま）の入った雑炊のような料理のことです。別府地区では昔からそばの栽培が盛んで、どの家庭でも作られていました。

「そまんずし作り」の行事は1998年から始まり、今回で22回目になります。地域の高齢者や育成者に指導してもらい、小学生はそばを作り、中学生は野菜を切ります。大鍋3つで煮込まれた汁は、みそ、しょうゆで味付けされ、さば節の香りがするやさしい味わいです。

大鍋から地域ごとに小鍋に分けて、寒い中で食べる「そまんずし」は温かく、参加者はみんなたくさんおかわりをしていました。

「そまんずし作り」を通して、賑やかで温かい世代間交流になりました。



桜山小学校では12月14日と22日に、「たけのこ」と「家庭倫理の会」の方々が、家庭科の授業で5年生にミシンの使い方の指導を行いました。

～ミシンを使ってバッグの製作指導～ 桜山小学校

5年生は初めてのミシンの授業でしたが、2日とも5人のボランティアの方々に来ていただき、2時間の授業2回でナップザックとトートバッグの作成に挑戦しました。



完成したナップザック

最初はなかなか作業が進みませんでしたが、ボランティアの方々に教えてもらいながら、ミシンを使って上手に作品を仕上げていました。

生涯学習課では、小中学生にミシンの指導をしてくれるボランティアの方を募集中です。「私も子供たちにミシンを楽しく教えたい」と思っている方のお電話をお待ちしています。(76-1286 生涯学習課まで)



～子供たちが松明(たいまつ)持って大活躍～ 田布川集落 鬼火焚き

田布川集落で1月9日に毎年恒例の「鬼火焚き」が行われ、「コロナ退散」「無病息災」を願う大きな炎が燃え上がりました。

鬼火焚きとは、竹で組まれたやぐらとともに正月飾りを焼いて、正月飾りについてきた悪霊（鬼）を追い払う鹿児島島の伝統行事です。以前は県内で正月の七日に行われ、鬼火焚きの残り火で餅を焼いて健康を祈願していたとのことです。他県ではトンド焼き・左義長などとも呼ばれます。



田布川集落内の田んぼに鬼火焚きのやぐらが生まれ、子供たち60人が子火を持って集落内を練り歩いて、やぐら前の広場で待ち構える大人たちのたいまつに火をともし大役を務めました。

その後、大人たちの親火でやぐらに火を付け、鬼火焚きの炎が勢いよく燃え上がりました。

燃え盛る炎をバックに「火の神乙女太鼓 爽」の太鼓演奏と「枕崎舞炎鯉」のよさこいが披露され、300人の観衆を楽しませました。炎と競うように花火も上がり、大きな歓声が上がっていました。



～音楽の授業で箏(こと)、尺八の 雅(みやび)な演奏～ 立神中学校

立神中学校では1月20日に、1年生の2クラスの音楽の授業で箏(こと)と尺八の生の演奏と解説を行いました。

箏はマーガレット会の川越支津子さん、山口直子さん、南條晴美さん、尺八は都山流竹示会の椎原久昭さんに来校いただき、演奏と箏・尺八の説明をしていただきました。

川越さんからは「箏は日本古来の楽器で演奏も難しいが、若い人が伝統を引き継いでほしい。」との話があり、椎原さんからは「私は尺八の音色に感動して、その場で先生に弟子入りした。尺八は音が出るようになるまでが難しいが、この中の誰か一人でも始めてくれたら嬉しい。」などの話がありました。



生徒からは「普段聴く機会のない楽器の演奏を初めて聴くことができた。」「音の重なりに深みがあって聴き入ってしまった。」「知っている曲でも、箏で演奏しているのを聴くと上品な感じだと思った。」などの感想がありました。

箏と尺八の生の音色と素晴らしい演奏に触れて、普段はできない貴重な体験をすることができました。



学校応援団ボランティア 募集中！ 詳しくは 生涯学習課まで TEL76-1286